



●フレッシュマン登場●

動物園で働く職員は、動物の世話をする者だけではありません。今回は、当動物園の動物の数より多い樹木の世話を一手に引き受けている園芸員(植木屋さん)の、それもこの7月1日から動物園にやって来たフレッシュマンMさんの登場です。年齢は20歳、動物園では最年少の彼に話をしてもらいました。

「毎日のように『刈込はさみ』を手ががんばっています。今までまったく手にしたことのない『刈込はさみ』や『せん定はさみ』で、最初は本当に『はさみ』との格闘でした。初めて刈込みをした時は、自分のイメージする木の形に刈込もうとするのですが、出来上がりは波のように凸凹になっていたり、穴が空いていたりとさんざんでした。今は、先輩から色々教えてもらって、少しは形になってきました。」

その話ぶりもいたって生真面目、ほとんど息子ほど年齢の差がある指導に当る先輩園芸員からも「まじめで、のみこみの早い子」と大変かわいがられています。



てーの鳴る方へ♪とおしりペンペンしながら走り去ったかどうか?!

④ そのイノシシの寝室だったイノシシ穴は、順位の低いキューちゃんボスが目の盗んで交尾をする秘密の部屋でした。メスと一緒に出てくるとバレてしまうので、時間差をおいて別々に出てくるという知能犯でした。

∞∞∞キューちゃんに限らず、サルたちとイノシシはとても仲良しでしたが、サルがイノシシの毛をむしっては食べてしまう悪い癖があり、食べた毛が束になって消化管につまったりする例が出るなどの理由で同居はやめになりました。∞∞∞

⑤ 最後に、とってもいいお話をしましょう。キューちゃんは、こどもを遊ばせるのがたいへん上手でした。母親は、その年に生まれた子の世話で手いっぱいのため、1才、2才の子はかまってもらえません。そこで、その子どもたちをキューちゃんがだっこしたりおんぶしたり。4～8頭くらい集まってきて、キューちゃんの周りは保育園のようでした。

ボスの小間使いの様な順位で他のオスからの信頼もなく、メスにももてなかったキューちゃんですが、こどもたちからの人気はナンバー・ワンでした。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

新しいサル島に移って半年余りが過ぎ、島の住民たちはアスレチックの遊具にも慣れ、順位もひとまず安定したようです。

ご紹介したサルたちも、増えすぎて他の動物園などへ集団移転していったものもありますが、新サル島の歴史は始まっています。日々繰り広げられる珍事件……あなたも、サル島の歴史の証人になってみませんか。

昭和59年7月21日当園生まれ、♂No.99 愛称「キュータロー」——サル島特集の最終回は、トラブルメーカーといわれたこの“キューちゃん”に飾ってもらいましょう。

① サル島ではいさかいが日常茶飯事です。たまたまそこにキーパー(飼育員)がいるときなら、キューちゃんはすかさずキーパーの後ろに回るや、ズボンの横を片手でつかみ、もう片方の手で相手を威嚇するという戦法を取ります。それが散水時なら、ホースの下で待機です。

なぜなら、他のサルたちはキーパーとホースには決して近付かないからです。ひとなつこいキューちゃんならではのワザでした。

② しかし、散水は水恐怖症のキューちゃんにとっても大の苦手です。散水が始まると、旧サル島のってぺんにあった鉄ナベ(両端を鎖でつないであるゆりかごのような遊具)をひっくりかえして頭にかぶるような格好で避難することから「ナベかぶりのキューちゃん」と呼ばれました。

③ イノシシがサル島に同居していた頃、イノシシは「キューちゃんのタクシー」と言われていました。仲間どうしの争いで形勢不利になるや、イノシシの背中に乗って一目散。♪おーにさんこーちら、

■第71号の発行は1月4日(木)の予定です。
■定期購読を希望される方は、62円切手4枚(1年分)を同封して京都市動物園までお申込み下さい。

動物園だより No.70 編集・発行人 野口義夫
発行所 京都市動物園
京都市左京区岡崎法勝寺町 TEL.075(771)0210・0211